

Le Bois

ルボア

No.45

2023.6.1

ルボアとは“森”という意味で、昭和26年別府女子専門学校の同窓会誌名であった

発行 別府大学同窓会 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL・FAX 0977-66-0210



「夜行性の庭」川野美華 芸術文化学科平成18年卒（春陽会会員 画家）2011年春陽会で激励賞受賞作品「芸術新潮」

Shigaki

いしがき

コロナ感染が不安の中、同窓会も2020（令和2）年度から活動自粛を余儀なくされて、各種事業を自重してきました。会報誌『ルボア』も3年ぶりの発行です。状況を見ながら活動の再開を考えています。

この間、「学校法人別府大学創立110周年」に続き、2021（令和3）年には「別府大学創立70周年」が祝われました。その記念に刊行された『別府大学開学ものがたり』に、創立者の佐藤義詮先生の建学の理念と別府大学の特色を知ることができます。本学の歴史の深さと、たどる沿革に理念の意義深さを感じます。別府大学は、大正デモクラシーの開明的な自由主義を汲む個性重視の教育機関「文化学院」に学ばれた義詮先生から、「自由で独創的な学校を」「小さくても善い学校を」

「感性豊かな人間を育てる」という学風が忠実に受けつがれたことに大らかな気概を感じます。そして、戦後日本の復興には女性に高等教育を、また真理を求め自由を愛する若者の人間形成をめざされた崇高な理念を確認しました。依拠する母校の原点とその独自性を認識することができたことは有意義でした。

私たちは、『別府大学開学ものがたり』から汲み取れる義詮先生の建学精神を脈々と継承されている大学の現状を心強く受け止めて、改めて大学と向き合い、身近な関係でありたいと思います。そして、大学の良き伴走者として同窓会活動を充実させたいと思います。

（同窓会会長 赤瀬 恵）

別府大学・別府大学短期大学部学長 友永 植 先生



4年にわたるコロナ禍もようやく収束の兆しが見えてきました。この間、学内での分散開催を余儀なくされていた卒業式・入学式も、今年はビーコンプラザで盛大に開催し、学生諸君の門出と始業を大いに祝うことができました。今、学生諸君で賑わうキャンパスを再び目にするのができ、大変嬉しく思っています。私たち教職員は本来のキャンパスライフへの復帰を最優先で進めているところです。

さて、本学は今年で大学が73年目、短期大学部が69年目を迎えます。この間、大学は3学部6学科、短大は2学科を擁し、建学の精神「真理はわれらを自由にする」を踏まえた全人教育を基礎に、和気藹々とした教育環境のもとで、各学科とも特色のある教育に取り組んできました。このような輝かしい本学の歴史は、同窓生と教職員の方々の長年にわたる努力の上に築かれたものですが、この度、そのような歴史に新たなページが付け加えられることになりました。

令和7年度に看護学部（仮称／定員80人）を新たに開設し（現在、設置構想中）本学の教育の幅を更に広げることにいたしました。別府医療センター附属大分中央看護学校の閉校に伴い、同校跡地に開設することになります。少子高齢化が進む今日、医療・看護・福祉分野の人材養成が社会的課題となり、特に高齢化と人口減少が著しい大分県では、急性期医療と地域包括ケアへの対応が強く求められています。看護学部はそのような地域社会の課題に応えるべく開設するものです。

同窓会の皆さまにおかれては、この間さまざまな形で本学と学生諸君のためご支援ご協力をいただき、大変感謝申し上げます。今後とも本学を温かく見守っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護学部設置・運営に関する包括連携協定



Profile

〔友永 植 ともなが・しよく〕

昭和61年 4月	別府大学短期大学部講師
平成元年 4月	別府大学文学部助教授
平成9年 4月	別府大学文学部教授
平成9年 4月	別府大学大学院教授
平成10年 4月	別府大学学生部長
平成20年 4月	別府大学文学部長
平成21年 4月	学生募集統括本部長
令和4年 4月	別府大学学長
令和5年 4月	別府大学短期大学部学長

森の人 賀川光夫先生 ～生誕100周年記念シンポジウム～

2022年12月17日（土）の午後、森の人 賀川光夫先生 ～生誕100周年記念シンポジウム～を開催した。賀川先生は、1951年に別府女子大学に赴任され、1963年には文学部長として史学科を創設された。2023年には、その史学科も創設60周年を迎える。2023年は、丁度、賀川先生生誕100年の節目でもある。今回のシンポジウムは、次の100年と60周年という節目を考えるという目的で開催された。

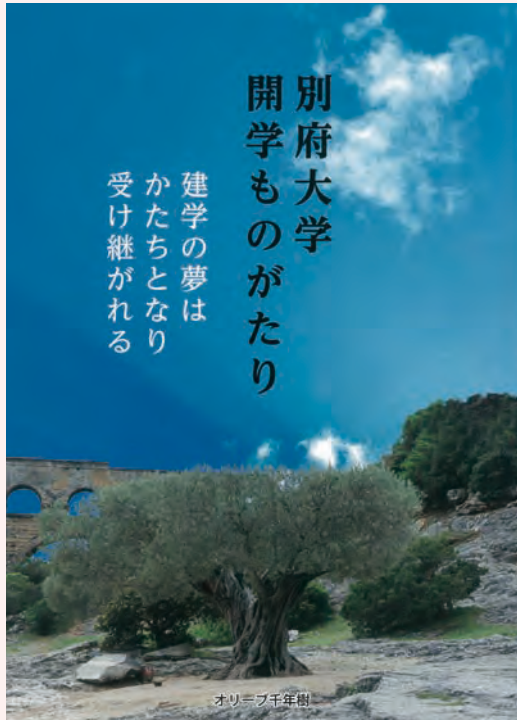
シンポジウムは、2部構成で、第1部は賀川先生のご長男である賀川洋氏（IBCパブリッシング会長）から「父の人生を振り返って」のご講演をいただいた。洋氏は、現在、グローバル人材を育成する英語学習プログラムの開発に注力されている。当然、賀川先生のグローバルな研究と、英語に堪能なご子息のお仕事とは無縁ではない。

第2部は、シンポジウムで、パネリストは賀川洋氏に加え、飯沼賢司先生、下村智先生、そしてコーディネーターは不詳ながら上野が務めさせていただいた。会の中で、下村先生から、「歴史と風土を守るために勉強しなければならないと教わった」という。奇しくも下村先生が別府大学に入学されたのは、1973年、私が生まれた年である。シンポジウムには、同窓会諸氏も多く集まっていたが、また、賀川先生がその創設に関わられた「歴史と自然を考える会」のメンバーにも、お集まりいただいた。後藤宗俊先生にも、ご来場いただき、現役学生も賀川先生の業績に興味津々であった。

涙の出る会にはしない、未来志向の催しにしようと同様で臨んだのであるが、なんということか司会者が泣きそうになってしまうという失態をおかしてしまった。別府大学が無ければ、史学科がなければ、私の人生は、全く違ったものであったであろう。私は、別府大学に人生を頂いたと思っている。賀川先生の思いを、次の100年に継承してゆくことが責務であると考えている。



『別府大学開学ものがたり』の紹介 (飯沼賢司先生)



この本は、2021年12月18日の大学創立70周年記念集會に合わせて出版されました。本は私飯沼と山本晴樹名誉教授が原稿素案を書き、オリーブ會議と称する大短の学生の代表16名とそのアドバイザーの若手教員8名、その他の関係教員、同窓會會長等の意見をくみ上げながら、まさにみなのかで書き上げました。編集後記に次のようにあります。

義詮先生は、文化學院創立者の西村伊作の下で学び、自由な精神を受け継ぎ、戦後、この大分の地に「真理はわれらを自由にする」という高い理想を掲げ、教育のオリーブの花を開かせました。それは小さな花のため、時として花の精神を見失うこともありました。しかし、今、コロナパンデミックと分断の世界の中で、再び原点に立ち返り、花の意味を問い、荒波に立ち向かうときが来ました。この本は義詮先生の熱い想いとその信条をコンパクトにまとめたものです。小さな大学の大きな物語です。われわれが、これからの進むべき道の一つの指針となれば幸いです。

2023年になっても世界はさらに厳しい分断の嵐に引き裂かれ、自由の意味がこれほど問われるときはありません。もう一度わが大学の原点を確認し、今をそして未来を考えましょう。

執筆本の紹介

「山姥のつぶやき」

大分合同新聞「灯」の執筆を終えた私は、穏やかな黄昏を味方にして暮らしています。時折、高校・大学・公務員時代と、その時々的確に導いてくださった恩師の方々の思い出が、走馬灯のように甦っています。それは「邂逅と謝念」の至福の時間でもあります。また、父母から命をいただき、この世に生まれてきた奇跡を感謝しています。人はそれぞれに「役割」を背負ってこの世に生まれてきたのだといいます。私の「役割」は果たせたのか・・・自問自答しています。

灯を執筆した25年間は、私にとってかけがえのない年月になり、私を大きく成長させてくれました。同時に、30数名の執筆者の一人として、執筆の機会を与えてくださった歴代の文化科学部長をはじめとして、多くの関係者に感謝申し上げます。

『山姥のつぶやき』 25年間大分合同新聞「灯」に寄せた単独コラム集

■著者：金田 信子（史学科 昭和43年卒）



「元軍船の発見」

蒙古襲来（元寇）という言葉は、だれしも一度は教科書で目にしたことでしょう。鎌倉時代、1281年（弘安4）に九州北部に襲来した元の大軍が、停泊していた長崎県松浦市の伊万里湾に浮かぶ鷹島周辺にて大暴風雨で壊滅的な被害にあった事件のことです。本書は昭和55年度からその確実な証拠を海底からみつけるべく調査手法の模索を重ねながら約40年間挑んできた水中遺跡（鷹島海底遺跡）の調査過程を考古学に関心を持つ方々のために新泉社のシリーズ「遺跡を学ぶ」の一環として紹介したものです。市域の文化財行政に永く携わってきた著者は市町村合併に伴い平成18年（2006）から本格的に水中遺跡に参画し、元軍の痕跡である2艘の元軍船の発見に至りました。読みやすい案内書となっていますのでぜひ一読ください。

■共著：中田 敦之（史学科 昭和54年卒）、

池田 榮史（琉球大学教授・現國學院大學教授）





附属図書館 リニューアル

2021年3月、2022年3月、2期に渡り全面改修工事を行い、附属図書館は新たに生まれ変わりました。



利用するみなさんに合わせて、各階にコンセプトをもたせました。

1階「人が集うラウンジ、知の入り口」

2階「知を想像する場所、多様な学習スタイルに対応可能な空間」(アクティブフロア)

3階「知と向き合う場所、自分と向き合うことのできる穏やかな空間」(ラーニングフロア)



1階

1Fは照明や装飾にこだわり、従来の図書館にはないラウンジのような雰囲気です。みなさんにリラックスしてご利用いただいております。

2021年度に引き続き、2022年12月、地域にお住まいの皆様もお招きし、図書館1階ラウンジにて朗読コンサートを開催いたしました。フリーアナウンサーの海原みどりさんの朗読に合わせて、県内外でご活躍の音楽家 都留敬比公さん・溝口伸一さんがオリジナル曲で文学作品の世界を立体的に表現してくださいました。日頃図書館は資料を利用者へ繋ぐ場ですが、演者のみなさんの言葉と音楽で図書館が満たされ、参加者のみなさん同士がすばらしい共有体験をする場となりました。



大学院 平成17年卒
リーダー 田中陽子
(株)丸善雄松堂

2022年4月に着任し、あっという間に1年がすぎました。お世話になった先生方や後輩のみなさんの研究・教育・学習をご支援できることに、日々喜びをかみしめております。

2021年3月・2022年3月の改修工事で、図書館の施設面での環境は整いました。しかしながら、多くの図書館が指針としている図書館学者ランガタンの「図書館5原則」の最後の一文に、“A library is a growing organism.”「図書館は成長する有機体である。」とあります。大変な勢いで進化する学術情報への対応は日々の研鑽が求められますが、整備された図書館を完成とせず、利用者の方々に寄り添って自在に変化し、成長できる図書館員でありたいと思っております。卒業生の皆様もぜひ新しい図書館にお立ち寄りください。お待ちしております。

2階

リラックスできる雰囲気 of 1階を経て、2階閲覧室に入つてすぐ現れるメインテーブルです。

いよいよ本格的に知の世界が始まります。



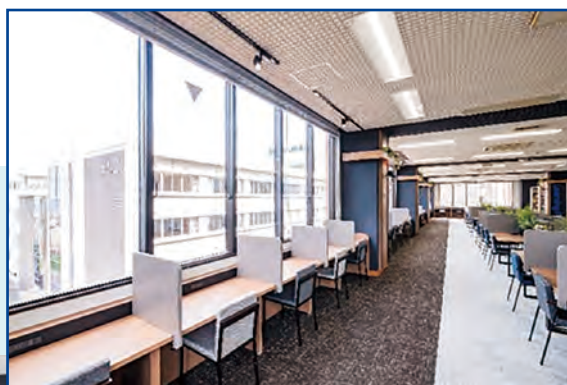
知を想像する場所、多様な学習スタイルに対応可能な空間

児童書コーナー

2023年度短大初等教育科では、令和3年度入学生から小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の免許・資格に加え、「認定絵本土」の資格を取得できるようになりました。実際の読み聞かせを想定したスペースを設けております。



3階



知と向き合う場所、
自分と向き合うことのできる穏やかな空間

3階はより深く学習に集中できるよう、色調を抑え、落ち着いた雰囲気の内装となっております。窓側閲覧席からは美しい別府湾を眺めることができます。

同期会だより

食物バイオ学科

三浦 史也 食物バイオ学科 平成24年卒

令和4年11月19日、様々な発酵食品会社で活躍する卒業生が増えている現状から、食物バイオ学科の同窓会を開催いたしました。旭酒造（山口県）に在籍している別府大学卒業生が幹事（別府大学卒業生が6名）となり同窓会を企画開催しました。

2期～10期生と幅広く集まったことで、食物バイオ学科立ち上げ当初からここ数年で、学科がどのように変わったのかなどが話題となったり、卒業生の現在の職や内容、やりがいなどを情報交換することができました。また、それぞれの会社商品を紹介するなどして、刺激を大いに受ける有意義な時間を過ごすこともできました。



ワンダーフォーゲル部

玉川 剛司 大学院 平成18年卒

令和4年度 渡り鳥の会

令和4年12月10日（土）に、新型コロナウイルス感染症の拡大のため開催できなかった渡り鳥の会（ワンダーフォーゲル部OB・OG会）を3年ぶりに開催いたしました。今回の会は、これまで渡り鳥の会の開催に向けご尽力いただいていた、サークルOBである山中浩司氏（史学科OB）が亡くなられて一周忌にあたり、普段よりも多くのOB・OGの参加がありました。

当日の会場では、山中氏がこれまでの登山の写真や、渡り鳥の会の写真など思い出の品を鑑賞しつつ山中氏を偲びました。



きちよくれ シリーズ 25

ビストロ・テル 「Bistro輝」

糸永 吉輝 食物栄養学科 平成19年卒

フランス料理というと敷居の高い特別な料理というイメージがまだまだあるように感じます。Bistro輝を開業するにあたって、フランス料理をもっと気軽に楽しめる場になってほしいと思いながら開業いたしました。

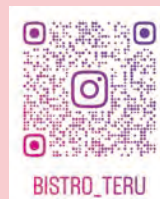
料理としては、いろいろな素材を楽しんで頂きたいので、市場まで直接足を運んで仕入れたり、お野菜などいろいろな種類を少しずつ使いながら、和食やイタリアンの技法も使いながら提供させていただいております。

基本的に料理、デザート、パンなどは手作りですので、アレルギーや苦手な食材への対応も出来る限りさせていただいております。ただ私一人でのサービスになりますので、多少お時間の方を頂くこととなりますが、ご了承ください。

インスタグラムやホットペッパーで情報を発信しておりますので、よろしくお願いいたします。

糸永氏プロフィール

卒業後、杵築のフランス料理「M・MIURA」で6年間学び、その後東京で修行。別府に戻り「Bistro輝」を開業。



information

〒874-0919

大分県別府市石垣東3丁目1番8号 高橋ビル

☎0977-26-7735

営業時間 Lunch 11:30～14:00 LO

Dinner 17:30～20:00 LO

定休日 水曜日

活躍する卒業生

赤峰 淳さん
 芸術文化学科 平成17年卒
 大分合同新聞2023年4月20日朝刊掲載

強豪校離れ、母校の監督に

高校野球の楊志館高監督に、4月からOBの赤峰淳さん(40)が就任した。明豊高で2012年8月から今年3月まで部長を務め、昨年のセンバツではチームの準優勝をもち立てた。県内屈指の強豪校から母校で指導する道を選び、「豊藤はあつたがすつと夢だった。かわいい後輩を必ず強くすると燃えている。打診を受けたのは昨年11月。妻から「母校の監督」という夢を追うべき」と背中を押された。二人三脚で指導してきた明豊高の川崎純平監督(41)から「母校でなければ当然反対する。ただ40歳の節

楊志館高野球部に赤峰淳さん



楊志館高野球部監督に就任した赤峰淳さん

不惑の決断「後輩を強く」

世(フットバンク)の野球センスを見抜き、捕手に抜てき。今でも良き理解者として連絡を取り合い、「大分の野球熱と一緒に盛り上げていければ」と思いをはせている。楊志館は現在3年生7人、2年生6人。新入生は11人前後の見通し。3学年で100人近くいる明豊とは設備も選手層も異なる。それでも培ってきた指導理論と情熱に変わりはない。恩師の羽田恭輔部長と共に8日、県選手権支部予選で初陣を白星で飾った。「無駄な失策や四球を出さず、当たり前のプレーをさせていく。まずは勝ち方を覚えさせていきたい」と、07年夏以来遠ざかっていた甲子園に向けて始動した。(首藤福光)

「くまもとの戦争遺産」最優秀

地方出版文化功労賞 玉名市の高谷さん刊行

地方出版社の本を対象に鳥取県の読書愛好家が選んだ第34回「地方出版文化功労賞」の受賞作が2日、発表された。最優秀の功労賞には玉名市の高谷和生さんが昨年刊行した「くまもとの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って」(熊日出版)が選ばれた。

高谷さんは「くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク」代表。熊本県内の戦争遺産の調査や保存活動を長年続けている。受賞作(271頁)は全8章からなり、太平洋戦争で使用された旧日本陸海軍の飛行場や軍需工場など、熊本県内の戦争遺産の視点から追究した。

特別賞は沖繩の民謡や詩をまとめた故外関守善さんらの「沖繩 ことは映い渡り」(ポーターインク)が受賞した。表彰式は11月に鳥取市で開かれる予定。

齋藤 まゆみさん
 史学科 昭和62年卒
 瀬戸内タイムス
 2022年12月7日掲載
 メールアドレス setouchi@kvision.ne.jp



令和4年度山口県文化功労賞の表彰式が11月29日、県庁であった。今年度から文化芸術功労だけでなく、文化財保護功労が加わり、光市文化財審議会委員の齋藤まゆみさん(虹ヶ丘1丁目)が受賞した。

山口県文化功労賞(文化財保護)

齋藤まゆみさんが受章

地道で裏方的な活動が評価される

文化財保護功労の個人受賞者4人のうち、3人は名誉教授または教授、齋藤さんの肩書は「会員(三知勤務)」が目玉を引く。功績事項によると、平成9年から光市文化財審議会委員(うち8年間が副会長)、歴史文化遺産の調査員、光市歴史研究会の事務局長として、光市の文化財

文化財保護功労の個人受賞者4人のうち、3人は名誉教授または教授、齋藤さんの肩書は「会員(三知勤務)」が目玉を引く。功績事項によると、平成9年から光市文化財審議会委員(うち8年間が副会長)、歴史文化遺産の調査員、光市歴史研究会の事務局長として、光市の文化財

保護、歴史文化の普及啓蒙の推進に寄与している。いわば、長年にわたる地道で裏方的な活動が認められたことは、非常に喜ばしい。ちなみに、平成8年度から始まった県文化功労賞の光市受賞者

歴史って自分事、身近なことを調べ、考えるものなのです

今日(10日)の紙面より、10日まで虹雲書心会の案書展(4面)

は、小西守氏(県川柳協会事務局長、中川健次氏(県歌人協会会長)に続いて3人目。受賞の知らせは「ええ」と驚きだったが、「歴史に関心をもち、文化財は大切なものだと思っていたらできるきっかけになれば」とお受けしたという。

歴史に興味を持つきっかけは、光高校時代、山本 明先生(元山口考古学会会長)による教科書を使わない日本史の授業、浅江の荒神山古墳の発掘調査の研究ノート(浦)

が進められていること。別府大学文学部史学科(考古学専攻)で学び、学芸員資格を修得した。齋藤さんらしい活動を紹介すると、「コロナ禍時代の日常を記録して後世に残す『コロナ世相』を呼びかけたり、盆踊りという身近な事柄をテーマに選り、市内各地で聞き取りやアンケート調査を実施。その結果は、『光市の盆踊りについて』の研究ノート(浦)

高谷和生さんの「くまもとの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って」(熊日出版)

高谷 和生さん
 史学科 昭和52年卒
 熊本日日新聞2021年8月3日掲載
 (共同通信配信)

藏座 江美さん

国文学科 平成5年卒
西日本新聞2023年4月9日朝刊掲載

熊本市現代美術館の立ち上げ(2001年)から学芸員・司書として勤務していた時に、国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」の皆さんに出会いました。美術館で何度か展覧会を開催しながら、全国に13ヶ所ある療養所では、制作された絵画などは引き取り手がない場合焼却処分されていることを知り、2016年から本格的に「金陽会」の作品調査を始めました。

今現在900点を超える作品を調査、保存しながら、入所者の絵に込められた想いを伝えるべく一般社団法人金陽会の理事として全国で展覧会を開催しています。一昨年から大学や小学校などの教育機関でも展覧会を開催していますが、次世代へ伝えていくことの重要性をかみしめています。

金陽会 光の絵画たち

～菊池恵楓園から 藏座 江美

82歳で描いた小1の記憶

陽光降り注ぐ春の日、子どもたちが列を作って歩いている遠足の情景。この作品を観たときの私の第一声は、「かわいかったですね」でした。「そぎやんだらう？」と言わんばかりの木下さんのちよつと照れた笑顔は忘れられません。最初にご紹介するのは、木下今朝義さんが描かれた作品《遠足》です。コラムのタイトルでもある「光の絵画」とよばれるきっかけになった絵です。

そうざ・えみ 熊本県出身。熊本市現代美術館で学芸員・司書として2001年から15年間勤務。16年から本格的に国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」の作品調査、保存活動を始め、全国各地で展覧会開催などに取り組んでいる。

木下今朝義《遠足》



1996年 油彩、キャンパス 45.5×53.0cm

この作品が描かれたのは、熊本県合志市にある「菊池恵楓園」。全国に13ヶ所ある国立療養所の中で一番大きな療養所です。そこには「金陽会」という絵画クラブがあり、9

00点を超える作品が残されています。2002年から絵画クラブの皆さんと交流を重ね、16年からは本格的に作品の保存活動を行ってきま

た。初めて金陽会の皆さんにお

会いた日、勤務していた熊

本市現代美術館の南島宏学芸

課長(当時)と少し緊張しま

がら訪問したのを覚えていま

す。恥ずかしながら、熊本市

現代美術館に勤務して菊池恵

楓園のことを知った私は、入

所者の方々が描かれた作品

は、世間への恨みや故郷へ帰

れない辛さ、会えない家族に

対する悲しみが込められた作

品が多いのだからとわかか仕

込みの知識で想像し、勝手に

思い込んでいました。

皆さんにご挨拶し、連れて

行かれたアトリエでまず目に

飛び込んだのがこの《遠

足》でした。想像とは全く違
う、光あふれる作品を前にし
て「言葉にできない」とは、ま
さしくこんな状況をいうのだ
と思い知らされるには十分す
ぎる衝撃でした。一緒にアト
リエに入った南島学芸課長も
興奮しながら「藏座、光の絵画
だな！」と声を上げ、以来、熊
本市現代美術館では金陽会の
作品を「光の絵画」とよんで展
覧会を開催してきました。

それからしばらくしてアト
リエを再訪し、木下さんと《遠
足》の話をしました。木下さ
さんは6歳でハンセン病を発病
し11年しか小学校に行けず、
同級生や先生からいじめを受
け、仲間外れにされていたそ
うです。ただ、一度だけ行っ
た遠足は仲間に入れてもらえ
て、その時を思い出してこの
作品を描き「菜の花と桜がき
れいでなあ」と話してくださ
いました。

光あふれる作品の影にそん
な思いが潜んでいるとは夢
にも思わなかった私は声を失
い、知らなかったとはいえ「か
わいかったですね」となって浅は
かな第一声を木下さんに投げ
かけてしまったのかと後悔し
ました。

小学1年生の遠足の記憶を
82歳の時に描いたこの作品を
観るたびに、辛い記憶でもあ
ったはずなのに描かずには
いられなかったのか、描くまで
これだけの年月が必要だった
のかなど、いろいろなことを
考えさせられます。らい予防
法が廃止された1996年に
描かれたこの作品を、金陽会
代表の吉山安彦さんは、「恵
楓園の宝だ」とおっしゃいま
す。

その宝である《遠足》を皮
切りに、金陽会の皆さんの作
品をご紹介します。どうぞお楽しみ
に。

◇1993年に発足した国立
療養所菊池恵楓園の絵画クラブ
金陽会。作品保存に取り組む学
芸員の藏座江美さんが、同会が
所蔵する900点超の作品から
、光の絵画と作者や作品にま
つわるエピソードを、週1回お
届けします。

輝く別大生

弓道の三十三間堂大大会成人男子の部



優勝を喜ぶ大木さん。副賞には弓と矢をもらった。別府市弓道場

大木さん(別府) 県出身初V

【別府】別府市桜ヶ丘の大学生大木優人さん(20)市弓道会、別府大弓道部所属が、1月15日に京都市で開かれた第73回三十三間堂大大会全国大会成人男子の部で優勝した。江戸時代の「通し矢」に由来する由緒のある弓道大会で、県出身者が頂点に立ったのは初めてという。関係者は「よく頑張った」「面白い話題をもたらした」と喜んでいる。

高2時に「とにかくうれしい」 夢見た舞台



授与された賞状やトロフィー、副賞など

通し矢は三十三間堂の軒下を射通す競技で、武士たちが一昼夜競ったと伝わる。大会は1951年に始まり、今では20歳になった若者が晴れ着姿で競技する新春の風物詩となっている。今大会には段位を持つ成人ら約1600人(称号者の部を含む)が参加した。大木さんは豊後大野市出身で、弓道は高校時代から始めた。動画配信サイトで同大会を知り、「一生に1度の機会。記念になると高校2年の時から出場することを決めていたという。親が黒紋付きを新調し、後押ししてくれた。

大会は遠的競技ルールに準じ、60ヤ先の大的(予選直径1尺、決勝同79寸)を狙う。予選は矢を2本射て、両方を的中させれば決勝へ。決勝は一本勝負で、的中した射手だけが次に進むことができる。成人男子の部には約620人が参加。遠的が得意な大木さんは「いつも通りにすれば大丈夫」と平常心で臨んだ。予選を突破したのはわずか17人。決勝最終戦は3人の勝負となり、2人が的中。大木さんがより中心近くを射止め、1位となった。

日頃から練習を見てきた弓道会の宇都宮悟会長は「真面目で熱心。週4日は道場で稽古している。気軽に頑張れと送り出したが、まさか優勝するとは。誇らしい」とたたえる。これまで個人戦では県4位が最高。「人生で初めての個人優勝。とにかくうれしい。先輩や仲間、家族の応援に感謝したい」と大木さん。この大会には称号者の部もある。「またこの大会に出たい。これからも精進して、全日本選手権優勝を目指したい」と話している。(和田礼子)

大木 優人さん

史学科3年生

大分合同新聞2023年2月14日朝刊掲載

第11回教職セミナーの開催

令和4年12月10日、3号館ホールで同窓会主催のセミナーが教職課程履修者（1年生から4年生全員173名出席）を対象として開催されました。赤瀬恵同窓会会長の開会挨拶の後、友永植学長からご挨拶をいただきました。その後本学卒業生の大野亜希子さん（史学科平成11年卒業・大分市立南大分中学校教諭）、糸永早希さん（発酵食品学科平成26年卒業・宇佐市立北部中学校教諭）、一尾優綺さん（食物栄養学科平成30年卒業・日田市立南部中学校教諭）3名の方が講師として教職を目指したきっかけ、現在の教育現場の現状、教師としての心構え、採用試験合格までの勉強方法など体験を交えた苦労話を笑いや共感のある内容で講演していただきました。参加者アンケートには「実際に現場に出られている講師の方々の話を聞くことができて、とてもためになった。」「講演の時間をもう少し長くしてほしい。」等多くの意見が寄せられました。（上田光法）



別府大学・別府大学短期大学部の卒業生で就職や進路相談を希望されるみなさんへ

本学を卒業され、就職活動を再開しようとお考えの方や、進路に対する質問などがある方は、下記のように情報を得ることができます。まずは連絡をお願いします。

- 1 **内容**：* 求人情報について * 就職相談について * 資格・免許について
- 2 **申込み**：電話にて受付
- 3 **方法**：確認後、内容により担当部と調整
- 4 **連絡先**：キャリア支援センター TEL：0977-66-9623



令和4年度 同窓会奨学金 の給付状況

大学院 文学研究科 (2年)… 2人
 史学・文化財学科 (2年)… 2人
 人間関係学科 (2・3年) 2人
 食物栄養学科 (2年)… 1人

短大

発酵食品学科 (4年)… 1人
 国際経営学科 (4年)… 1人
 食物栄養科 (2年)… 1人
 初等教育科 (2年)… 4人

一 別府大学同窓会奨学生 一

成績優秀かつ健康で人物的にも優れ経済的に就学が困難な者であり、学生の模範となる行動がとれること、在学中や卒業後同窓会活動に積極的に参加することを条件としている。

同窓会からのお知らせ

●住所等が変わった方はご連絡ください

就職先決定の際や、転勤、転職、ご結婚などで住所、勤務先、姓などが変更した際は、ホームページ又はEメール又は電話にてご連絡ください。

同期会等の開催について

学科別、卒業年別等における会員を中心に開催される同窓会に対して、本部から補助を受けることができます。補助金は、一律1万円とし、10人以上の出席者を必要とします。（ただし、同一会に対しては年1回とします）開催するにあたり、事前に申請書を提出し、終了後には報告書を提出いただきます。その際、年1回発行の会報誌ルボアに寄稿、掲載いただきます。

※申請書はホームページからもダウンロードできます。

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします

- 名誉教授
古庄ゆき子 先生
- 名誉教授
富田健二郎 先生
- 元大学非常勤講師
川野 洋子 先生

- 顧問
坂本 義明 氏
- 名誉顧問
萩野 忠好 氏
- 評議員
黒木 充生 氏
- 元事務局長
山中 浩司 氏

別府大学同窓会
ホームページ
を開設しました!

ホームページでは同窓会・支部会の開催情報など、最新の情報をお届けします!

連絡先

〒874-8501 大分県別府市北石垣82
別府大学同窓会本部事務局

TEL・FAX 0977-66-0210

E-mail: bdousou@beppu-u.ac.jp
 https://bedousou.jimdofree.com/



Facebook
QRコードで
簡単アクセス!